

# 令和4年度全国学力・学習状況調査結果と今後の指導について（概要版）

小豆島町教育委員会

日ごろは、本町の教育活動の推進にご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、小豆島町教育委員会では今年4月に全国の小学校第6学年と中学校第3学年の児童生徒を対象として実施した令和4年度全国学力・学習状況調査に関する小豆島町の結果ならびに今後の指導で大切にしたいこと等を、国や県の報告書をもとにまとめましたのでお知らせします。

小豆島町教育委員会としては、この調査結果を踏まえ、児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に努めておりますので、皆様にはこれまで同様、本町の教育活動に対してご理解とご協力をいただきますようお願い申し上げます。

なお、これは、概要版であり、詳細版についても、小豆島町ホームページ上にて公開しておりますので、ご参照ください。また、全国学力・学習状況調査問題については、国立教育政策研究所のホームページをご参照ください。

## 1 調査の概要

### (1) 調査の目的

義務教育の機会均等維持とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### (2) 調査の対象

- ① 小学校調査 小学校第6学年
- ② 中学校調査 中学校第3学年

### (3) 調査事項

- ① 教科に関する調査  
国語、算数・数学、理科
- ② 質問紙調査  
児童生徒に対する調査および学校に対する調査

### (4) 調査実施日 令和4年4月19日（火）

### (5) 調査を実施した学校、児童生徒数

- ① 小学校調査 4校 73人
- ② 中学校調査 1校 52人

## 2 調査結果の概況

- ※ 全国（公立）の平均正答率との差が1ポイント以上の場合・・・「上回った」「下回った」
- 全国（公立）の平均正答率との差が1ポイント未満の場合・・・「ほぼ同じ」
- 全国（公立）の平均正答率と同じ場合・・・「同じ」

### (1) 教科に関する調査の全体的な状況

- ① 小学校
  - 国語、算数・・・全国（公立）の平均正答率とほぼ同じ。
  - 理科・・・全国（公立）の平均正答率を下回った。
- ② 中学校
  - 国語、数学、理科・・・全国（公立）の平均正答率を下回った。

(2) 課題のあった設問と今後の指導で大切にしたいこと

	出題の趣旨	今後の指導
国語	○文章に対する感想や意見を伝え合い自分の文章のよいところを見付ける。	○自分の文章のよいところを見付ける時に、文章全体の構成や展開が明確かという視点で見直すことができるようにする。また、国語の時間を中心に自分や友達の作文等を相互に評価する場を設定する。
	○学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使う。	○当該学年の新出漢字だけでなく、既習の漢字についてもドリル等を活用して繰り返し練習させる。また、読書指導を充実させ、日常生活の中で多くの漢字に触れる機会をつくとともに読書への意欲化を図る。
算数	○数量が変わっても割合は変わらないことを理解している。	○苦手意識の強い割合について、日常場面に対応させながら視覚的に実感できる活動を通して、考えることができるようにする。また、生活経験と関連付け、『比較量』や『基準量』を判断し、割合の意味を理解できるようにする。
	○目的に合った数の処理の仕方を考察できる。	○数の処理をする時、数を大きくみたり、小さくみたりして、概数で処理する便利さを実感できるようにする。また、設問の意図を正しく読み取るため、多様な問題を解いて練習する。
理科	○実験で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できる。	○実験計画や実験結果、結論を発表する時に、常に『問題の視点』を意識して表現させるようにする。また、実験結果から結論を導きだす前に、事実を整理、分析し、自分なりに解釈するように促す。
	○メスシリンダーの正しい扱い方を身に付けている。	○器具や機器の扱い方だけでなく、操作の意味も理解させるようにする。実験を行わせる時は、一部の児童だけが扱うことがないようにしたり、動画を使って効率よく何度も説明したりする。

子どもたちに必要な資質・能力を育むためには、学校で学んだことを日常生活で活用したり、家庭や地域での経験を学校生活に生かしたりすることがとても大切です。子どもたちが学校で学んでいることに関して、ぜひ、楽しく子どもたちと話したり、一緒に考えたりしてみてください。保護者の働きかけのある子どもは学力が高いという傾向があります。



(3) 無回答率の状況と今後の指導で大切にしたいこと

無回答率（問題に解答しない割合）は全国（公立）平均を下回った（無回答は少なかった）。

今回、国語14問、算数16問中、理科17問中、無回答率が全国（公立）平均を上回ったのは6問（国語3問、理科3問）であった。その理由として、児童質問紙調査の「解答時間は十分でしたか」の設問について、足りなかったと答えている児童が全国（公立）平均を上回っていたとあるように、時間配分に問題があったのではないかと考えられる。普段の学習から解答時間を設定し、限られた時間の中でも力を発揮できるよう取り組んでいくことも大切である。

(4) 質問紙調査の状況<O>と今後の指導で大切にしたいこと<☆> ( )内は全国と比較した本町の肯定的回答

自尊意識について

- 「自分にはよいところがあると思うか」 (全国を上回った)
- 「将来の夢や目標を持っているか」 (全国を上回った)
- ☆児童が自己発揮できる場を多様に設定し、プラスの声かけを行う。

学習に関する関心・意欲

- 「○○の勉強は好きか」(理科だけが全国を上回った)
- ☆教科への興味・関心を高めるために、自分で考え、取り組むことができる学習者主体の授業づくりを行う。

情報教育について

- 「学校で、ICT機器をどの程度使用しているか」(全国を上回った)
- ☆児童のICT機器の使用頻度、活用技能は全国平均を大きく上回っている。今後は、学力向上に結び付くように効果的に活用していく。

家庭における学習習慣等

- 「平日に1日当たりどれくらいSNSやゲーム等をしているか」(「2~3時間」「1~2時間」「30分~1時間」は全国を上回った)
- 「1日当たりどれくらい勉強するか(2時間以上)」(全国を下回った)
- ☆小豆島町の児童は、ゲーム等の時間が長く、家庭学習の時間が少ない傾向にある。将来の目標に向かって学習や下校後や休日の過ごし方を家庭で話し合う機会をもつことが大切である。

学校の体制

- 「授業研究や事例研究など、実践的な研修を行っているか」(全国を上回った)
- 「先生はあなたのよいところを認めているか」(全国を上回った)
- ☆今後、より学習意欲の向上を図る授業実践等を行うとともに、児童一人一人に目を向け、寄り添った指導を行っていく。

(2) 課題のあった設問と今後の指導で大切にしたいこと

	出題の趣旨	今後の指導
国語	○場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉える。	○題名の意味や登場人物の変化を考えるなど、全文を貫く課題を設定し、複数の場面を関連付けて読むようにする。また、ある程度の分量のある文章の読み方を習得させ、豊かな読書生活を基盤にした読解力の向上を図るようにする。
	○自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話す。	○スピーチの機会を意図的に設定し、話す機会を増やしていくとともに、表現方法の相互評価から自己分析へとつなげる学習展開を図る。ICT機器を活用して、自身のスピーチを繰り返し見直すことも取り入れる。
数学	○結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明することができる。	○具体的な数を用いて調べたり、説明し合ったりする活動を設定し、見いだした事柄を数学的に表現できるようにする。その際、解決の過程を振り返り、統合的・発展的に考え、数学的に表現する機会を継続的に設けていく。
	○事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる。	○日常生活の中から得られたデータを表にしたり、グラフにプロットしたりする活動を取り入れ、生徒自らが一次関数とみなすことができるようにする。また、解決方法や手順を記述したり、伝え合ったりする活動を継続的に設定する。
理科	○身に付けた知識を身近な現象で活用できる程度に概念を理解できる。	○状態変化に関する知識と身近な現象を関連付けて探求する場面を設定し、学んだことを日常生活の場面につなげて考えられるようにする。
	○実験の結果を分析して解釈し、課題に正対した考察を行うことができる	○観察・実験の結果を分析・解釈する時、明らかにしようとするものは何かを意識することが大切であるので、観察・実験の方法を生徒自身が考える活動を取り入れ、実験のねらいを理解させる。

学力向上のためには、学習を習慣化していくことが大切です。小豆島町の子どもは、スマートフォンやゲーム等の利用時間が長く、家庭学習の時間が短い傾向にあるので、下校後や休日の時間の使い方を家庭でも話し合ってもらい、目標に向かって計画的に学習を継続していくと伸びにつながります。保護者の働きかけのある子どもは学力が高いという傾向があります。小さな伸びを認めていくことで、継続の意欲も高まります。



(3) 無回答率の状況と今後の指導で大切にしたいこと

無回答率（問題に解答しない割合）が全国（公立）平均を上回る問題が多かった。

無回答率は全国（公立）平均を上回る設問が10問あった。そのうち数学が4問、理科が5問と無回答率が高くなっている。あきらめずに粘り強く問題と向き合うことやわからないままでは終わらせないことを継続して伝えていく。授業では、「まとめ」「振り返り」の時間を大切に、学んだことが生かされるような課題を繰り返し行っていくことで学習内容の定着を図る。

(4) 質問紙調査の状況<O>と今後の指導で大切にしたいこと<☆> ( )内は全国と比較した本町の肯定的回答

<p><b>自尊意識について</b></p> <p>○「自分にはよいところがあると思うか」 (全国を上回った)</p> <p>○「将来の夢や目標を持っているか」 (全国を下回った)</p> <p>☆生徒の自己有用感を高める取り組みを続けるとともに、互いの良さを認め合う仲間づくりを行う。</p>	<p><b>学習に関する関心・意欲</b></p> <p>○「〇〇の勉強は好きか」 (全国を国語、数学、理科ともに下回った)</p> <p>☆「何のために学ぶのか」「現在の学びが将来どのように生きるのか」をしっかりと伝えていく。</p>	<p><b>情報教育について</b></p> <p>○「学校で、ICT機器をどの程度使用しているか」 (全国を上回った)</p> <p>☆生徒のICT機器の使用頻度、活用技能は全国を大きく上回っている。今後、タブレットを持ち帰り等、家庭学習の質的向上や学力向上に結びつくように効果的に活用していく。</p>
<p><b>家庭における学習習慣等</b></p> <p>○「計画を立てて勉強しているか」 (全国を下回った)</p> <p>○「1日当たりどれくらい勉強するか(2時間以上)」 (全国を下回った)</p> <p>☆自分の将来に向けて、興味・関心をもった事柄や、自分の目標に向かって、主体的に学習する習慣を身に付ける。授業で学習したことを活用する課題を出す等、家庭学習と学校での学習を関連付ける。</p>	<p><b>学校の体制</b></p> <p>○「授業研究や事例研究など、実践的な研修を行っているか」 (全国を上回った)</p> <p>○「生徒一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する取り組みを行ったか」 (全国を上回った)</p> <p>☆今後も、学習指導要領で目指す「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善を行うとともに、生徒一人一人を大切に、寄り添った指導を行っていく。</p>	